

玉本なるみ

です



連絡先：日本共産党北地区委員会

☎075 - 432 - 3261

2020年10月②号

決算特別委員会 報告

玉本市議は消防局と文化市民局に対して質疑しました。

<消防局>

①北消防署建設が進む中、住民の皆さんのサイレン音への不安について質疑。北消防署の建て替えは、老朽化、耐震化の問題から求めてきたもの。しかし、問題は移転先。大宮交通公園内は住宅地のだ真ん中。住環境への影響があまりにも大きすぎます。サイレンは大通りに出てから鳴らすことができるのではないかという問い合わせがありますが、走行し出すと鳴らすことは法的に定められています。しかも、音の下限が**90デシベルなので、極めて騒音**という範疇。配慮ができないのか質疑しました。サイレンを鳴らさないことはできない。しかし、**トーンの調整**はできるとのこと。一度その違いを確かめたいと思っています。現在の北山通りにある北消防署ではサイレン音などの苦情は1件もありません。説明会は何度も対応してきており、今後しないと冷たい答弁でした。消防署と地域住民が対立する関係になってはいけない。後から、住宅内に入り込む立場として、丁寧な対応が必要と求めました。

②消防局と地域包括支援センターの連携 高齢化や一人暮らし、酷暑による熱中症など、救急車の出動回数は増えています。地域の高齢者支援を行う包括支援センターとの日常からの連携が必要と質疑しました。以前は窓口となる救急係長とうポストがありました。人員削減はしてはならないと厳しく追及しました。

<文化市民局>

①ジェンダー平等社会をめざして

・男女共同参画計画の見直しにあたって、男性の育児取得率の向上や女性の管理職に占める割合がまだまだ低いことを取り上げ、目標を引き上げ取り組む事を求めました。そして、そのベースには**超過勤務**などの働き方の問題が根深くあることについて、指摘し改善を求めました。

②パートナーシップ宣誓制度では、財産権の問題など限界がある。法的に、「**同性婚**」を国に対して求めて行く必要があると追及しましたが、国が決めることという立場で、消極的な答弁を繰り返しました。

京都市内でのフラワーデモに参加。

河原町四条で久々に開催され、参加しました。コロナの影響を考え、スタンディングで、マイクでは話さず、「性暴力を許さない」「不当判決を許さない」「杉田水脈議員の辞職を求めます」等のプラカードとお花を手にアピールしました。プラカードをじっと見ながら歩いていかれることもありました。

11日は全国各地で、集会やアピール行動が行われますが、地域毎にアピールの仕方は違うとのこと。京都では外向けにマイクなどでどんどん訴えるというより、参加者が語れるような場の提供を大切にしてきたとのこと。しばらくはコロナ禍で、集会的なやり方は見合わせ、短時間だけど、街中でスタンディングでアピールするとのこと。

自民党の杉田水脈衆議院議員の暴言「女性はいくらでも嘘をつけるから」に怒りを込めて、目力でスタンディングしました。



左から3番目が玉本なるみ市議

③文化芸術活動をも守る取り組みについて

新型コロナ禍で、公演や各種イベントの中止や自粛開催が続く中、文化芸術関係の仕事は激減し、生活そのものが厳しくなっています。補正予算でこれまで10億円近い対策をしてきたが、来年度にも続く影響を考え、生活支援も含めての予算にする必要を求めました。

日本の文化予算は他国に比べて極めて少ない。韓国の10分の1、フランスの8分の1、ドイツの4分の1です。抜本的な政治のあり方が問われます。

アンテナ

ゆりかもめ通信に思う

ゆりかもめ通信」とは、**養育里親**さんの機関紙です。以前に市会の厚生委員長をしていた時に、総会に出席したのをきっかけに賛助会員にならしていただいた関係で、送られてくるお便りです。

子どもへの虐待事件が後をたたない状況下で、何かできないかと、子どもができないご家庭だけでなく、実子がおられても、養育里親として登録され、子どもさんを育てられている方がおられます。

昨日届いた通信では、そんな里親さんのお話がいくつも掲載されていて、心が温まり、涙がでました。子どもも里親さんも最初は大変だけど、心通わされ、家族になっていけます。そして、ほんとの両親ではないことについては、早い内からお話される方や一定の年齢になってからお話される方も様々ですが、それも乗り越えられて、家族としての絆を深めていけます。

法的に**養子縁組**をされる方もありますが、実はその時に、同性パートナーの場合はハードルがあることを知りました。条件として、戸籍上の両親が必ずとのことで、同性婚が法制化されていない中で、養育里親になれても、戸籍上は親子にはなれないとのこと。なんだかまだまだ、戸籍にとらわれる日本社会の矛盾があることを実感しました。

京都市のパートナーシップ宣誓制度にはすでに30組の方が登録されたとのこと。法的にも同性の婚姻も早く、認めるべきです。

